

黙とうする章南中の生徒たち



## 豊橋・章南中 花菜さんの冥福祈る

浜名湖(浜松市)で2010年6月、豊橋市立章南中学校の野外学習中に発生したボート転覆事故を教訓に制定された「豊橋・学校のちのちの日」の18日、同校では、全校生徒343人が体育館に集まり、4年前のこの日亡くなった西野花菜さん(当時1年生)の冥福を祈って黙とうした。

柴田祥宏校長が「みなさんと先生たちが命の大切さを考える日になりたい」と訓示し、花菜さんが事故の前夜に三ヶ日青年の家で書いた学習のしおりからとった「夢があるっていい」の1節と、仲間でカッターボートをこいでいる様子を描いた花菜さんのイラストをデザインした旗を紹介。旗は昨年、花菜さんの両親から贈られたもので、生徒会代表の手で校庭の掲揚台に掲げられた。

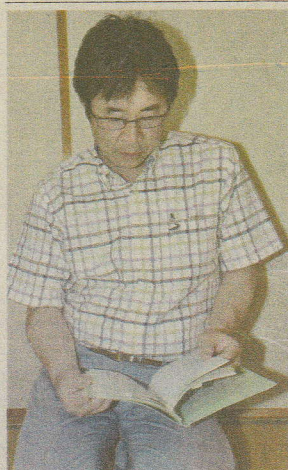
集会后、生徒らは各教室で命の大切さをテーマにした授業を受け、最後に生徒と先生たちが黄色の風船約400個を飛ばし、花菜さんをしのんだ。この日はいのちの日は始まって初めて校内が開放され、地域の住民や保護者らが訪れて授業の様子を見た。

# 「命」テーマに授業も

## 浜名湖ボート転覆から4年

## 両親「つらさ今も」

ボート事故で亡くなった西野花菜さんの両親の友章さん(55)、光美さんは「娘と3人だけの暮らしがガラッと変わり、つらさがきょうまで続いている。それでも少しずつ死を受け入れられるようになったし、事故のことも客観的に見られるようになった」と語る。命日の18日は花菜さんの好物だったハンバーガーを買ってきて分け合って食べた。「じめじめしたことは好きじゃない」と話す。



花菜さんが書いたしおりを手にする西野友章さん

事故後1か月ほどたって学校から返ってきたかばんさんに、花菜さんが野外学習の間に書きつづったしおりが入っていた。「将来の夢」と題した文章には「私にな

りたいのは医者です。いろんな人のけがや病気をなおして笑顔にしたいから」と書かれていた。

神経の難病に苦しむ光美さんの入院や通院に、小学生だった花菜さんが付き添った。「幼い頃からピアノやバイオリンを習っていた

ので、音楽家を目指すのか」と思い込んでいた。医者になりたいなんて一度も言ったことはなかったのに、私の病気を見て決めたと思う」と光美さんはいう。

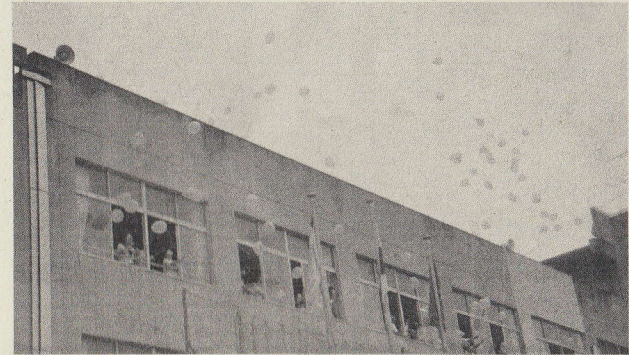
両親は先月、学校が関係する事件事故で子どもを亡くした県内の親たち4家族で「学校事件事故遺族連絡会」を設立した。これまでの知識や経験を生かし、途方に暮れる親たちの手助けをするのが目的だ。友章さんは「夢を抱いていた娘を失った私たちにとって、これがこれからの仕事です」と話している。

## 浜名湖のボート転覆事故から4年

## 豊橋章南中で西野さん追悼

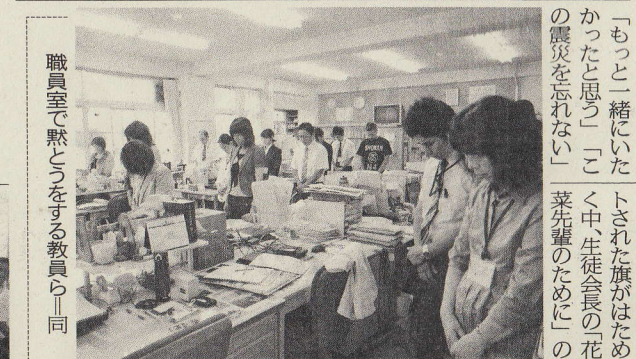
## 「花菜先輩へ届け」

## 風船に思い託して大空へ



浜松市の浜名湖で2010(平成22)年6月、豊橋市章南中学校の手こぎボートが転覆し、西野花菜さん(当時12)が亡くなった事故から18日で4年を迎えた。同校では黙とうをさげるとともに、花菜さんに届けとバルーン(風船)を飛ばし追悼をした。

この日朝、教員らは職員室で黙とうを行い花菜さんをしのんだ。柴田祥宏校長(54)は「決してこの事故を風化させない、もう2度このような事故を起こさない体制作りを行っていく。常に安全安心面を考えることが必要」と教員らに訴えた。



全校集会では生徒343人が黙とう。その後、各クラスでは阪神淡路大震災を題材にした絵本を教材に、道徳の授業を行った。もう会えない友達を思い風船を飛ばす場面を見て

職員室で黙とうをする教員ら＝同

## 命の尊さ 胸に刻む



東日本大震災発生当時の様子を話す石ヶ森住職＝五並中学校で

学校でいのちの大切さを考える日として

五並中学校(高橋直廣校長)では18日、東日本大震災で被災した岩手県下閉伊郡山田町の松蔵山龍泉寺の石ヶ森住職を招き「私と東日本大震災」と題した講演を開き、命について学んだ。

保護司会などが、犯罪や非行防止など訴える、社会を明るくする運動も兼ねて企画した。

石ヶ森住職は震災当時本堂を遺体安置所にしたことや、約

110人の遺体を送ったことなどを紹介。「昨日まで話していた人の変わり果てた姿を見て、身内を亡くしたように悲しかった」と当時涙

が止まらなかったと話した。他県からの支援に感謝するとともに「細くとも長い支援活動を」と訴えた。(飯塚雪)

## 安全への決意を新た

三ヶ日 静岡の教育関係者ら青年の家

現場となった三ヶ日

日町の静岡県三ヶ日青年の家では、県立青少年教育施設などの関係者約40人が集まり、献花、黙とうを行い、花菜さんのめい福を祈るとともに安全への決意を新

たにした。

同青年の家には、花菜さんの一周忌に建てられた慰霊像があり、参列者の代表が花を手向けた後、全員で黙とう、花菜さんを追悼した。安倍徹教育長は「花菜さんのかなえられなかった夢、無念さを忘れることなく、安全を確認することが大切」と述べた。

同県教育委員会は、花菜さんの命日を「安全確認の日」と定めており、参列



献花する参列者の代表＝静岡県三ヶ日青年の家で

者は青少年教育施設意見交換などもしの安全対策について。(中村晋也)

## 豊橋・学校のいのちの日

## 震災に学ぶ慈しむ心

豊橋市はボート事故の翌年、2011(平成23)年6月18日を「豊橋・学校のいのちの日」と設定し、市内の小・中

豊橋市前田中町2の14  
佐々木 織維(株)  
053-2534141

自宅で花菜さんをしのんだという父の友章さん(55)は「あの事故から4年、ずっと時が止まったまま。現場の先生の危機を予知するスキルが上がっているのか、豊橋市から子どもたちを守る防止策や具体案が見えてこない。花菜が浮かばれないような気がする」と話した。

掛け声で各教室から生徒らが黄色い風船を空に放った。同校は修学旅行への下見に数回行く、野外活動も綿密な資料作りを行い安全対策に努めているという。

そして午後3時45分、掲揚塔に掲げられた花菜さんの書いたイラストがプリントされた旗がはためく中、生徒会長の花菜先輩のために「

花菜先輩の思い出

# 6・18を忘れない

## 浜名湖のボート転覆事故から4年

### 章南中 「いのち」の授業公開

浜松市浜名湖の野外実習でボートが転覆し、豊橋市章南中学校1年の西野花菜さん（当時12）が亡くなってから18日で4年がたった。「花菜さんの命日『6・18』を風化させてはいけない」と、同校では今年から「いのち」の授業を地域住民に公開し始めた。



雨が降りしきるなか、75人の保護者らが参加して、子どもの安全安心について考えた。

職員朝礼で柴田祥宏校長（54）は、教職員に「常に子どもの安全安心を考えて学校づくりをしてほしい」と訓示した。

生徒らには、花菜さんが描いた絵入りの黄色い旗を紹介。花菜さんの両親の「雨の日でも旗を掲げてほしい」という思いを受け、国旗、校旗とともに掲げた。

全校生徒が黙とう（章南中学校で）

「自分の命、まわりの命の大切さを考え

て、今日という日を過ごしてほしい」と呼びかけ、全員で黙とうした。

道徳の授業では、ふうせん屋になるのが夢だったが震災で亡くなった女の子が主人公の絵本「ゆずちゃん」の読み聞か

せを行った。最後に、生徒会長の「花菜先輩への思いを込めて、風船を飛ばしましょう」というかけ声とともに、全校生徒と教職員ら約400人が、黄色い風船を空に放った。（深田いつみ）



花菜さんの直筆イラスト入りの旗（同）

花菜さんへの思いを込め風船を飛ばす生徒ら（同）